

轍わだち

2011, 8. 11 NO23

放射能被害に心痛

あの日から…66年目の夏を迎えたヒロシマ・ナガサキ

あの日から5ヶ月が過ぎた東日本の被災地…

「これ以上ヒバクシャを増やさないで」との思いが高まっている。

8月9日被爆地長崎の平和祈念式典において長崎市長が述べた「長崎平和宣言」冒頭には…

「今年3月、東日本大震災に続く東京電力福島第1原子力発電所の事故に、私たちはがくぜんとしました。爆発によりむき出しになった原子炉。周辺の町に住民の姿はありません。放射線を逃れて避難した人々がいつになったら帰ることができるのかも分かりません。「ノーモア・ヒバクシャ」を訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射線の恐怖におびえることになったのでしょうか。自然への畏れを忘れていなかったか、人間の制御力を過信していなかったか、未来への責任から目をそらしていなかったか…、私たちはこれからどんな社会をつくろうとしているのか、根底から議論をし、選択をするときがきています。」

「核」と「福島」が問われる今夏、被災地をめぐる問題は5ヶ月が過ぎても、今なお、深刻さを増している。

被災地を見て

高校3年1組

8月6日から8日までよさこいのイベントで、南三陸などに行ってきました。防災センターや、被災した小学校や避難所を見てきました。言葉にならないほどひどい状況だったけれど、現実の感じがしないせいかピンときませんでした。想像を超えた被害に唖然としました。しかし、震災当初から灰色だった景色に、少しずつ雑草が生えてきて、灰色だった町を緑色が包んでいるようにも見えました。よく見ると4本ほど枯れかけた向日葵が咲いていました。その向日葵はどんなに綺麗に咲いている向日葵よりもたくましく見えました。被災地では、復興が始まっているんだなあと感じました。

第2弾 オリジナルタオル 完売近し

600枚作成した2種類の第2弾目のオリジナルタオルは、みなさんのご協力により残すところ僅かになりました。心より御礼申し上げます。このタオルは、第1回目のオープンスクール参加者からも購入申し込みを受け付けていました。早々お礼状と「轍」と共に送りました。また、卒業生が集う場にも、全国の私学の先生が集う場でも、被災地への応援を訴え購入を呼びかけ、大勢の先生方に購入して頂きました。

そして、アイバンホーや、ニュージーランド海外研修のお土産としても利用していただきました。

第3弾のオリジナル…今度はハンカチを売ります

デザインは、海外でも個展を定期的に行っている卒業生が引き受けて下さいました。

物的被害を受けた私立学校1425校

「東日本大震災」は私立学校も大きな被害を残した。

文部科学省が五月二十四日

現在でまとめたところによると、大震災による私立学校の園児・児童・生徒、教職員の死者数は百二十三人、負傷者数は百二十七人、行方不明者数は二十三人に上り、何らかの物的被害を受けた私立学校は十九都道府県で大学等を含め千四百二十五校にも及んだ。

そのなかでも宮城県では津波等で命を落とした私立学校の生徒や園児等が九十四人に及び、福島県の十人、岩手県の十七人を大きく上回った。

特に沿岸部にも点在する私立幼稚園が大きな被害を受ける結果となった。

私立中学や高校は比較的高台に位置しているため、宮城県内でも津波による甚大な被害を免れることができた。

それでも激しい地震の揺れ、その後の度重なる余震で校舎が大きく損壊、使用不能

東日本大震災の被害状況

になった、体育館の天井が落下した、また関東地方でも液状化現象により校舎の大規模な補修等が必要となったなどの被害が発生した。

そうした一方で、学校施設は三校が避難所となった。

また福島県では、東京電力の福島第一原子力発電所での放射能漏れ事故が私立学校にも大きな影を落としている。

原発から二十キロ〜三十キロ圏内に私立高校が二校ある

私立中学 物的被害額は約168億円に

そうした厳しい被災校を少しでも支援しようと本連合会

が、休校状態を余儀なくされ、また広く県内の学校では放射線量を低減させるため、校庭の表土を削ったり、校庭で生徒が活動する時間を制限したり、毎日、放射線量を測る作業などに追われている。

また風評被害も深刻で、来年度の生徒募集への影響を懸念する私学関係者は少なくない。

東日本大震災による私立学校の被害状況

1. 被害等の全体状況

※平成23年5月24日19時現在で文科省に報告があったもの

① 人的被害

(単位:人)

都道府県	死亡 (上段:学生等 下段:教職員)	負傷 (上段:学生等 下段:教職員)	行方不明 (上段:学生等 下段:教職員)
岩手県	(幼9、短1、 大5、専1) 17	(大13) (幼1) 18	(幼2、高1、 大1、専1) 6
宮城県	(幼57、高5、 短2、大26、 専1) 94	(大1、専6) (幼1、大2、 専4) 14	(幼4、中等 1、高1、大5) (幼1、専4) 16
福島県	(幼4、高1、 大5) 10	(高2、大6) (幼2、高1) 11	1 (高1)
栃木県	0	(大3) (大1) 4	0
群馬県	0	(大4) 4	0
埼玉県	0	(高2) 2	0
千葉県	0	(大3) 3	0
東京都	(専2) 2	(大35、 専14) (高1、大7、 専11) 68	0
神奈川県	0	(大3) 3	0
計	(幼70、高6、 短3、大36、 専2) (幼3、大1、 専2) 123	(高4、大65、 専20) (幼3、高2、 大18、専15) 127	(幼6、中等 1、高2、大6、 専1) (幼2、高1、 専4) 23

※一部の大学や専修・各種学校、宮城県、福島県の幼稚園等について、引き続き安否確認中

② 物的被害

(単位:校)

都道府県	幼稚園	小学校	中学校	高校	中等教育学校
北海道	2				
青森県	9			3	
岩手県	38	1	1	10	
宮城県	107	4	7	18	1
秋田県					
福島県	81	2	7	18	
茨城県	125	1	7	23	2
栃木県	23			4	
群馬県	17		1	6	
埼玉県	36	2	8	16	
千葉県	83	1		22	
東京都	22	4	9	13	
神奈川県	24	2	7	10	
新潟県	3		1	1	
富山県					
山梨県	3				
長野県					
静岡県	10			2	
和歌山県					
計	583	17	48	146	3

が私学ボランティア基金を活用して始めた義援金募集は、六月十三日現在、一億八千三百五十九万二千二百九十九円に達した。義援金は全国七百三十二の私立中学高校、日私学保連など十六の団体等から寄せられたもの。本連合会では被災校における被害状況を勘案した上で、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の六県を被災県として、各私学協会を通じて災害見舞金、さらには被災生徒対象の「修学支援金」等各種見舞金を贈ることになっている。

本連合会がこれまでに調査したところでは、被災六県の私立中学高校の物的被害額は百二十四校で約百六十八億円に上る。今後時間の経過とともに被害額が増える可能性もある。また私立中学高校の生徒で大震災により死亡した生徒は五人、保護者が死亡または行方不明の生徒は四十三人、住居が全壊した生徒は五百七十八人、住居が半壊した生徒は五百五十九人となった。これらの数も今後変化する可能性がある。

このほか東日本大震災で被災した児童生徒については全国の私立学校が受け入れを表明しているが、文部科学省が五月一日現在でまとめたところによると、私立中学校では三十人、私立高校では百三十四人の被災生徒を受け入れている。